



コロナ禍の中、「文化芸術をなくさないために声をあげ続けていこう」一演劇、音楽、映画、美術の各分野に関わる人たちのリレーエッセーです。(随時掲載)

昨年4月の緊急事態宣言発令後、すべての映画館が、休業補償もない

文化芸術守れ つながるエッセー

⑤

「シネマ・チュプキ・タバタ」代表
平塚千穂子さん

人の命救う力がある

中、休館を余儀なくされ、経営基盤が脆弱なミニシアターは閉館の瀬戸際に立たされた。6月から営業は再開できたが、席数制限を行いながらの経営が続いた。現在も東京都の感染拡大は止まらず、都の協力要請に従って午後8時までの時短営業

業。席数制限は自主的に行いながら感染予防対策に努め、苦しい経営を続けている。

しかし、映画を愛する人々の手で、全国のミニシアターを救おう！と立ち上がったクラウドファンディング「ミニシアター・エイド基金」では、たった1カ月で約3万人が賛同し、3億3千万円もの支援金が集まった。不要不急の外出自粛と言われている今でも、映画を愛し必要とする

人々が、ミニシアターを救うことも、定を運んでくれた。一つの映画が人の命を救うこともある。ある映画との出会いによって、人生が変わることもあった。それぞれ違う、多くの命が共存することの広い世界で、他者と出会って生じるドキドキやワクワク、ハラハラやイライラ。それが、芸術や文化によって昇華していくからこそ、平和で幸せな未来をイメージすることが出来るのだと思う。「不要不急」どころではない「絶対不可欠なものだ。」(ひらつか・ちほ)

リニューアルされ設備も整った大展示室内観(写真提供:日本民藝館)



文化 学問



「染付秋草文面取壺」朝鮮時代 18世紀前半 日本民藝館蔵 (写真提供:日本民藝館)

装や、琉球紬や芭蕉布の染織品など、民族固有の造形美に心を打たれる。歴史や政治を超える民藝の底力を感ずる展覧会である。(こぼやし・まり 美術ジャーナリスト)
*6月27日まで。東京・日本民藝館。☎03(3467)4507
開催状況などは変更になる可能性があります。



常設展共通・一般1000円。休館日=月曜日、5月6日(木)。
☎045(912)7777

生と森村・松本「ヨ」を開催し、初期の「外景画像」から、いた「麗子裸像」「大連星ヶ浦圖」38歳で早世した時期の画風がす。油彩画の彫刻なども館の劉生コレ約50点に上り、今回収蔵された実業家の森村